

幼 兒 教 育

第 二 十 一 卷 第 三 號

大 正 十 三 年 三 月 十 五 日 發 行

目 次

獨逸の子供に代りて……………メヒレンブルヒ博士

獨逸兒童教育の頓挫……………前田不二三

聞いたまゝ……………みどり

獨逸の兒童は如何にして成育するや……………チーレル嬢

看過され易きことども……………長尾美知

神戸に英語遊戯會について……………一保 姆

雜 報

幼兒の發問の研究……………黒瀬艶子

日 本 幼 稚 園 協 會

東 京 遊 戲 法 大 成 會 講 師

水谷式夫・眞島睦美共著

音 樂 界 的 福 音

小供唱歌と遊戯

附 歌 錄 劇

四六倍判横綴寫眞版入 全一冊 定價金貳圓 書留送料金拾八錢

由來子供の唱歌なり遊戯なりはかの無邪氣な小さい胸から流れ出る天籟の倍調に合はねばなりませぬ、水谷先生は音樂の素養深く且つ日常兒童に接して無意識裏に兒童の心に共鳴しておいでの方です、又眞島先生は現下兒童遊戯の權威者で其歌詞を表情し其歌曲と氣合を一つにするに至つては實に天才であります、今此兩先生は平素懇親の問柄として互に隔意なき研究を遂げられ此兩者を公にせられたまはした幼稚園、小學校の受持先生方並に一般家庭に推奨されます。

四六倍判横綴銅版全三冊 一・二・三各卷金四拾五錢 郵稅各金四錢

こどもの唱歌

全三冊 (用童兒)

文 部 檢 定 出 願 中

洋裝菊判全二冊

前篇 金壹圓七拾錢
後篇 金貳圓

(第六版)
(第五版)

郵稅金拾八錢

眞島睦美著

尋常 小學 唱 歌 動 作 遊 戲

振替電話 東京二四一 番 八〇四 番 四一四

大倉書店發行

東京 日丁 橋角

唱歌劇の寵兒

東京市礪川小學校訓導
東洋家政女學校講師 水谷式夫先生著

對話唱歌

定價

各册 金參拾五錢

郵稅各貳錢

第一編 舌切雀

第二編 こぶこり

第三編 文福茶釜

以下 浦島太郎、かちかち山等續々刊行

第四編 桃太郎さん

第五編 花咲翁

第六編 さるかにかに

本書の實質は已に、皆様御承知の筈。各學校、家庭よりの御註文日々殺到重版重版又重版發行以來實に拾數萬部の御買上に接し本書發賣以來類書多數刊行せられたるに徴しても如何に本書の眞價の絶大なるかを知る。切に御愛唱を希ふ。

發賣

東京市芝區
松本町四十四番地

合資共益商社書店

振替東京一五八〇番

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります

コドモ

幼童
雜誌
良友

童話

本誌はコドモの兄様姉様に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。

世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選べるゝであらうか。

單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいであらうか。

東京市小石川區 東林町五十七番地
發行所 **コドモ社** 電話 六一九二
石川 六一九二

第三回全國幼稚園關係者大會

拜啓豫而御承知ノ通り來ル三月十五日ヨリ五月十三日迄大分市ニ於テ九州沖繩八縣聯合共進會開催相成候此機會ニ於テ我大分縣保育會ハ左記要項ニ依リ第三回全國幼稚園關係者大會開催致度候間何卒御賛同ノ上多數御出席相煩度實ハ會期發表遲延致シ御迷惑トハ存候得共協議問題ノ提出竝ニ意見發表等ハ可成多數御依頼致度候尙協議題ノ整理及發表順序等ハ當會ニ御一任被下度此段御通知旁々得貴意候 敬具
 追テ温泉ヲ以テ有名ナル別府町ト大分間ニハ電車及汽車ノ便有之僅ニ四十分行程ニ候間御參考マテニ申添候

大正十年三月五日

大分縣 保育會 長
 大分縣視學官 横尾惣三郎

記

- 一 開 催 地 大分縣大分市 會場ハ大分市大分女子尋常高等小學校講堂ノ豫定
- 一 開 催 期 間 大正十年五月三日四日五日ノ三日間
- 一 舉 行 事 項 議事、講演、實驗談、研究發表等
- 一 出席申込期日 大正十年四月五日限
- 一 出席申込所 大分市大分幼稚園内大分縣保育會
- 一 會 費 一人ニ付金貳圓 出席申込ト同時ニ送金セラレタシ
- 一 協議題提出期日 出席申込期日ニ同ジ 説明ヲ要スルモノハ簡單ニ認メ問題ト共ニ送附セラレタシ
- 一 實驗談題目提出期日 同 前
- 一 研究發表題目提出期日 同 前

以上

發表時間ハ一人十五分間以内ノ豫定
 發表者ハ其筋書ヲ開會當日マテニ差出サレタシ

寄稿歓迎!!!

各地にわたける幼稚園の實際、また、その地の教育界の御様子、その他、家庭や學校で得られた、皆様の御經驗を何なりと御寄稿下さいませ。紙面を備へてお待ちしております。

一、毎月の締切は二十五日限り

一、御寄稿は東京市本郷區東京女高師附屬幼稚園内黒瀨艶子宛に願ひます。

幼 兒 教 育

第十二卷第三號

大正十三年三月十五日發行

△
二十世紀は兒童の世紀」に北歐の新人は申しました。思ひがけない大戦は、この宣言を裏切つて、今や、中歐諸國には、兒童の恐怖時代が參りました。わけても獨逸の子供の慘めさは、見るものをして眼をおほはしめ、聽くものをして耳をふさげしめる有様です。國こそ變れ、親子の情、饑渴の苦しみに於て、かはりのあらう筈はありません。日々にたはれて行くこの餓えたる子供等に對し、また、狂はんばかりに我子のために食を得んとしてつかはれて、行く母親に對し、私共、一掬の涙を惜まないわけには參りません。

△
天然の恵みのたかなわが國は、冬こても、さほごに寒さもはけしくございませぬが、しかも、今や、春待つ心に充ちて居ります、草木の芽ののびるやうに、我が子も生ひ育てかしま念するは親心です。風も陽も長閑になりまさる今日此頃を、いとしの子が、身も心も充ち足りて、遊びに餘念なかれかしねがふは親心です。さるを、食を奪はれ、暖をこり去られた彼の國の子供は、身も心も凍りついて、力もなげに、いつ來るこもわからぬ春を待ちわびて居ります。

△
こゝに本誌は、その窮狀の一端を、こゝに子に對する情のこまやかな私共同胞の方の心に訴へたいと思ひます。今や死に瀕してゐる、かの國の子供等、それをこりまく親又は同胞が、遙かに極東の一國から同情の心を送つて居るこゝを聞きましたなら、幾分の慰めにならうと思ひます。微力ながら、我々は、多くの讀者諸氏の涙を集めて、この三月號を獨逸の子供に謹んで獻じたいと思ひます。

獨逸の子供に代りて

獨逸大使館參事官　メヒレンブルヒ博士

西洋に斯ういふ國が御座いました。その國の住民である百姓や商人や職人等は、至つて勉勵する人達で、農業だのその他の職業に熱心に従事して居りました。それですから此國の幸福も、品位も是等の人の勞働によつて高まつて參りました。山からは石炭を出し、鐵を産し、工場の煙突からは盛に煙を吐きました。又此國の船は世界の港にあらはれ、遠い

遠い日本に迄も參りました。その人民は至極簡易な生活を送り、幸福と云ふものを充分享樂しました。何人も自分自身に要するだけの物は所有して、空腹を忍ぶ人などは御座いませんでした。

又此國には學問と教育とが旺盛を極めまして、藝術も榮えました。まことに幸福に充ち、光輝赫々たる國で御座いました。

然るに突然此國の空に暗雲がたゞよひまして、最初は隣國に於ける小さい雲でありましたのが、終には大空一面を覆ふやうになりました。東西を問はず

凡ての地平線には、物凄いな音が轟き、雷光石火を相交へまして、全く煙雨の天地と化し、大戦争の世とはなりました。此處の住民は、勞働、學問、藝術に力を盡したのみならず、軍事にも勵んで、五年以上の歲月に互つて、前後左右の敵を防禦して居りました。

此間に此國の船は優勢なる敵國により方々に追ひつめられました。今迄幸福の夢を見てゐました此國、實は獨逸の人民が種々の缺乏に惱み始めました。平時に於ては、丁度、日本に向つて多くの米が、支那や、印度から參りますやうに、獨逸の人口増殖による食糧の不足は、海外から輸入を仰いで居りました。初めの中は少々食物が足りなくとも、格別心配は御座いませんでした。蓋し、戦争は間もなく終局を告げることを思ひましたし、最少の地面にも穀物や野菜を一生懸命に作りました。先づ一時はそれで間に合ひましたが、それから悪作が續きました。最早ど

の土地も叢のやうになつて收穫を得られぬことがわ
かりました、その理由は外國から来る肥料が足りな
い爲めに、よく實ることが出来ない爲めで御座いま
した。

そこで事情が悪化しました。日本で食べます白麩
麵は歐洲人の主要な食物で御座いますが、之が全く
なくなつてしまひました。それからひどい混雑物を
して終には黒麩麵を食べるやうになりました。更に
又ひどくなりましては、馬鈴薯、蕪などを混せた麩麵
を拵へ、甚だしきに至つては、人を養ふ處でなくな
りました。病氣に導くオガ屑やその世ひどい物を混
せた麩麵をたべなければならなくなりました。麩麵
の不足のみならず、肉も段々少くなりました。牛や豚
などの食物が乏しい處から、畜類を多く飼ふことが
出来なくなり、此處に又牛乳の缺乏を來しました。
男子の多くは、戰場に出ますので、婦人ご子供ご
は全力をあげて、その留守をまもつたのですが、
田畑から、牛馬に至るまでの世話は、どうも充分に
行きごきませんでした。漁師の大部分は海軍に召
集されて、軍艦に乗り込み、残つた僅かのものが、
出漁しましても、海は敵國の船にたえずおびやかさ

れ、その上、水雷がどしどし敷設されましたので魚
も亦、稀になつてしまひました。

此海にも山にも乏しくなつた食物のうち少しでも
よいものは、よく戦ひ得られるやうにご戰場に送つ
てしまひました。しかし、やがて、それを得るさへ
困難になりました。

私は開戦後に三年目に獨逸に歸りまして、從軍い
たしました。その時の苦痛は申上ようもございませ
んが、既にこの時、我々兵士は一日も空腹でない日
はありませんでした。一日二食、それも僅かの量で
した。空腹ではたらき、空腹でねむりました。

戦後二年間獨逸に於て、一切の食物は政府の切符
でなければ買はれませす、その上食物も極めて僅か
になりました。そのために、不正の方法をとる人の
他は、皆いつも空腹を抱いて居りました。衣服も同
様で獨逸には本綿はございませんし、羊毛も少し、
かありませんから、これ等は皆外國から輸入して居
りましたのですが、輸入のたえた後、其時迄貯へて
あつたものも無くなりませすし、段々著るものさへ乏
しくなりました。靴も亦同様でございませす。

人間が平時、數年間も充分に食し得ず、寒い處で、

しかも衣類が不充分であれば、大變な不幸と感じ、とても我慢は致しますまい。併しながら、戦争の際には、人々は、唯戦に勝ちたいばかりに、すべてを忍びます。望みの的は、たゞ勝利の一にあるのみです。獨逸の人民が、あの大戦中、いかに多くの苦痛に堪えましたか……、私はこゝで容易にお話が出来ません。勝利をまてばこそ、苦痛を忍びました。併し獨逸は勝利を失ひました。

既に、二年前に休戦となり、一年半前に、平和となりました。

かくて、この永い間の空腹の終が来る時を、獨逸國民は、いかに心から、待ちこがれて居たのでございませうか。皆様も恐らくお察しがつきますでせう。この苦しみ、戦争とにも終つたでせうか。いえ、なか／＼、どういたしまして。何故此の苦しみが終りをつげないかといふ事を申上るよりも、唯々此處には平和一年半後の今の獨逸の有様が如何であるか、之を申し上げることに致します。

戦に敗れた獨逸は、數萬の人間を死に送り、多大の金を戦争につかひつくした今日、食物を充分に自國でつくる事が出来ず、また、外國から買ひ入れるこ

とも出来ません。もし、此の東京で、貧乏な者が、米屋へ行つて「私に賣つて下さい。今に働いて金を儲けたら拂ひますから」といつても、米屋はことばでせう。獨逸においても同様です。アメリカに向つて、我が同胞が饑餓に瀕して居るから、肉を賣つて下さい。又、子供に乳がなくて育ちませんから、どうかそれを送つて下さいといへば、米國は、當然、「代金は？」と問ひませう。獨逸は「今、それは拂はれません」といふより外に仕方がありません。

大人は六年間の空腹に馴れました。辛いながらも自分の口をつめて、子供に與へました。子供は成長する時ですから、勿論、大人のやうに空腹はたえられません。子供には、これは一層苦しいこととございませう。無邪氣な子供を餓えさせるべきではございませぬ。子供は戦争に對して罪はございませぬ。何にもしらないのです。子供は、たゞ、親から可愛がられて遊んでゐればよいのです。また、少し大きくなれば、學校に參り、愉快な心で勉強して、立派な人間にならうとする外に何にも苦しめられるべきも

のではございませぬ。
叔、今のこの國の子供は如何でございませうか。

私は、昨年中、故國で、しばし小學校の前を通りまして、子供を眺めました。何か遊びらしい遊びをして居る子供は殆んどございませんでした。顔は蒼ざめ、手足は力なく、たゞ、ちつとして居りました。遊びをするだけの力がありませんのです。私がある日公園に腰かけて居りますと、小學校からかへるらしい生徒の一人が、私の前を通りましたので、私はそれを呼びとめて訊ねました。

「もう何かよめるようになりましたか」と、子供は、「はい」と答へて、勿論といふやうな様子を致しました。「何歳？」ときいてみますと、「九ツ」と答へました。私はびつくり致しました。六ツにもならないと思はれる位に小さかつたのです。全く食物が足りないのです、發育ざかりを大きくなれないのです。このやうに大きくなれない子供は、今や、獨逸には數萬を數へ、その半分は病身です。その病人の如何に多く、又、いかにひどいかは、充分申上げられません。あまり惨めな有様です。たゞ、こゝに一二の例をお話して、あとは察して頂きたいのです。

それが勞働階級ばかりでなく、中産社會の者、例へば、商人、官吏、教員等の子供が、今や嘗つての

貧民のそれよりもひどい状態になつて居りますのです。

私は、三四ヶ月前に國に居ります母に、米一升位と、コンデンスミルクと、その他少々の食物を送りました。やがて、母からの手紙によると「涙ながらに喜んだ」とのことでございます。戦前ならば、これらのものは何處の店で、僅かの金で、また誰でも買ふことの出来た些細のものです。こんな物さへも、今は、餘程の金持でなければ、手に入れることの出來ない物となつて居ります。

私の母は老人で、その上、永い間、空腹をつけて居りますので、衰弱して居ります。母自ら、乳が必要であるにも拘らず、貰つた乳は、弟の子供にやらうと思ふと書いてありました。この、母の弟は、まだ壯んな人で、子供が四人あります。化學者で、戦前には樂に暮して居りましたが、戦争中から今日迄、前に申しました通り、子供に適當な食物を與へられませんし、また今、よしあつても、高くて買つてやれません。その結果はどうなつたことせう。この叔父には、十二歳の娘がありました。いたつてまめな子でございし、まして學校でもよい成績を得て居りました。昨年、私が、日本に參ります前に會ひました時、少しく衰へた様子でした。その後、母の手

紙で、段々蒼ざめて瘦せて参りましたといふことをきいて居りました。しかるに、此度の手紙に、次のようにしらせて來ました。この子が、或る日、學校で、先生に何か尋ねられました時に、立ち上つて返答をしようとしたら、突然、倒れました。それは、榮養不足の衰弱が原因でした。氣絶したと思ひましたら、さうではありませんでした。娘は死んでしまつたのでした。そのまゝ、両親の家に届けられました。……

このやうに衰弱して、そのために學校へ行かれない子供が、今、獨逸には、何萬人とあることは、事實で、全國の統計をごらん下さればわかります。それ故、遊ぶなどいふことは是等の子供の頭には全くございませぬ。たゞ、腹痛を覺えるほどの空腹に於いてのみ考へて居ります。幼稚園に参りましても、身體をうごかせば、なほお腹がすいてつかれますから、ちつとすわつてゐます。たゞ先生にお話をせがみます。そのお話のうちに、「よいをぢさんがお菓子をもつて來て」などと、うっかり食物のことが出て参りますと、子供等は、もう、その方に氣をとられて、「私達のところにもさういふ、人が何でもいゝから持つて來て」と叫びますし、かはいゝ頭をさげて、神様にそのをぢさんの來るやうにと、お祈りするものなどあつて、お話のすぢをつけることも出來なくなります。小學校へ生徒が來るには來ますが、頭はま

るではたらかず、全く空腹のことだけに占領されてゐますから、先生も授業をなか／＼渉らせることが出來ませぬ。

ひどい衰弱のために病身になつた子供が、病院に引きとられましたも、物資缺乏の困難にはあまり變りはございませぬ。例へば、一番大切な繃帯がなく、その代りに、紙を用ひて居ます、寢牀には敷物がなく、衣類もありませぬ。また、何處の病院も、このやうな子供は満員ですから、食物が充分でありませんが、百人中、八十人乃至九十人は、重い貧血病です。都會よりも割合によいといはれてゐる田舎がこの通りです。また最近届いた寫眞を見ますと、伯林市に於て、七八歳の子供が、やうやく三歳位の大さしかございませぬ。しかも、やつと七歳になつて歩かれるそうで、その理由は、食物の缺乏のためです。恰も、赤兒のやうに、骨が加たまらないため

かうして、死をまつ獨逸の子供、困難に沈んでゐる子供、眞に泣いても／＼泣ききれないので、この惱みの間にも、やがて、救ひの手が來ることが、あの子供達に知れれば、うれし笑ひを忘れた彼等も、思はずニツコリ致しませう。一度でも、乳が飲まれ、満腹するだけに食べられた時の喜び、それはどんなでございませう。

獨逸兒童教育の頓挫

前田 不二三

人間社會の最も悲しむべき事は、教育の障礙である。吾人は今回の世界の大動亂に鑑みて、人間の性格を更に／＼善にして美なるものに教育しなければならぬ。智育に偏し、自己の利益をのみ計る様な精神を人格の中から消滅させて了はなければならぬといふことを痛切に感じた。人間の教育上此の目的を達しなければ、人間は決して戦争といふことを止めない。従つて、この地球上には、人間社會の平和といふことが、どうしても來り得ない。

しかるに、歐洲の真中に、前世紀の後半に於て、中歐の心核ともいふべき健全な文明を建設し、兒童研究、兒童教育、兒童保護政策において、世界に冠たり、又、同時に東洋における我々日本人と相俟つて西洋における最大産兒國の一なる獨逸に於て、兒童教育と兒童保護政策の實施について、人間歴史あつてより以來、未だ曾つて見ざる一大悲惨、一大障礙が生じた。

其の原因は何かといふと、兒童社會の食と衣とに大不足を惹起し、又住に對しても従つて苦痛を覺ゆる様になつて來たのである。

又、獨逸における兒童教育の頓挫とは、如何なる事かといふと、兒童は、食物、主として牛乳が大不足を來したので、發育出來ない。學齡に達しても、發育不完全の爲めに入學する事の出來ない者が澤山ある。家に坐つて居る、二歳になつても、三歳になつても歩かれない兒童の數は、どれ位澤山あるかわからぬ位で、七歳八歳になつて、漸く歩く事の出來る子供が少くないのである。此の發育不完全は今や獨逸の兒童社會においては一般の現象となつて居る。

又、兒童社會に非常に病氣が多くなつて來た。獨逸の肺結核消滅政策は有名なもので、この結果として、同國には、此の患者が非常に減少して居つた。之は正確な統計があつて、識者間にはよく分つて居

る。然るに、この獨逸は、今や急轉直下で、世界唯一の肺病國とならんとしつゝある。この肺結核が、今や獨逸においては、幼少年をおそひつゝある。

殊に、吾人をして、哀を感せしめるのは、兒童の神經衰弱といふことである。今日迄、兒童社會には、神經衰弱といふことは、全くないことで、之は成人に起る現象である。然るに獨逸の兒童(この點については、埃國も同様)は空腹で一日を送り、空腹のままに寢について、一寸眠つたかと思ふと空腹のために眠られないで、すぐに目が覺める。加之、衣服も不充分で、ズボン下もなく、靴下もなく、石油、電氣、瓦斯等のために支拂ふ金がないから、夜になると燈火なしで、室内にごろ／＼して居る。

かゝる状態にある獨逸の兒童社會は今や全く死滅に一步／＼近づいて居る。乳牛十六萬頭及び馬、牛、豚等、中年位の動物を、佛、白等に提供して了つた。大正九年度の兒童の死亡は如何に大いか、この統計はまだ分らないが、實に戰慄に値するものがある。推せられる。大正三年の戰爭開始の年と、大正六年とにおける五歳から十五歳迄の子供の死亡とを比較して見ると次の如くである。

大正三年……………三萬七千二百五十人
大正六年……………五萬二千八百五十四人
大正六年は、まだ戰禍の甚だしくない時代であるが、それでも大正三年に比較すると一萬五千六百六十四人の増加である。

右は、學童數の減少の理由であるが、次には、學校における教育の種々の障礙を手短かに述べると、學校で時々授業を始められない事がある。それは、兒童が榮養不良で衰弱して居つて、(この數は全獨逸に於て約八割より九割)體力も氣力も缺乏して居つて、授業がうけられず、遊ぶだけの體力がないから、ちつと坐つて居つて、先生に何かお話をして下さいと願ふのである。

都會の状態によつて異なるが、空腹のために、學校で、四割位は脊柱を直立させられない者がある。學校においては、右の事情があるから體育は多くの學校においては、不可能である。兒童の注意は常に何かの食物か、又は自分の胃か腹に向つて居る。故に教師の云ふ事に注意を向ける力が甚だ弱い。

我々、幸福の境遇において、今日の獨逸の兒童

觀察すると、實に、哀れども、悲惨とも言語に絶して居る。衣物もなければ食物もない。シャツ一枚洗濯するにも、石鹼がない。顔を洗つても拭ふに手拭がない。幾百萬の兒童がかゝる境遇にあることを思ふと實に同情に堪へないのである。

斯の如き兒童を有して居る母親の身になつて考へて見、又、かくの如き兒童を我が子の如く愛する學校の教師の位置にたつて見ると、親の心や、教員の悲しみは如何に大なるものであうか。一人の子供が少し病氣になつて、ビイ／＼泣かれても我々は中々苦しいのであるが、獨逸の母親が毎日／＼どうして子供を養はうかと、いくら心配しても、其の效なく、榮養足らぬために骨が充分出來なくて歩く事が出來ない様な有様を日々目の前に見て居るのは如何に悲しい事であらうか。

獨逸から償金を取る事について斯ういふ説が行はれて居る。償金を無理に取つて獨逸を破産させると、歐洲の經濟が紊亂して終ふと。私はこれと同様に、若し獨逸一國を軟骨人體(骨が榮養不良のために發育せざりし人體 Rachitis)の國となし、肺結核國となせば、その影響は即ち歐洲全體に及ぼし、不幸、災

禍の原因を爲すのである。

また、實に恐るべきは、兒童の不道德心の増長である。背に腹はかへられないといふ諺の如く、子供は如何にしてか食物を得ようと思つて、店頭に菓子でもあるのが眼に入れば、つい盜心が生ずるのである。

もし、戰爭責任の罰として、獨逸より乳牛、馬、羊等を奪ひ去り、兒童の道德心をおとろへさせ、然して、かゝる兒童の數が幾百萬と出來れば、これこそ人類社會のため、悲しむべきことではあるまいか。

○

「日本服の私共がシャツがない、ズボン下がない、靴下がないといつても、大した苦しさを感じませんでせうが、洋服で、シャツも、ズボン下もなく、その上裸足では、その姿を想像して見ても大變ですれ」

「手拭もない、シャボンもない、きたないまゝの顔や手足、そうして働いて、空腹をかゝへて……。何といふおそろしいこととせう」

聞いたまゝ

みづから

○パンと肉が常食の歐洲人は、大人でも牛乳をのまなければ居られないのだそうです。ことに十四歳までは、一日四合を用ふることが、榮養をとる上に、大切なことだと申します。先日、ある獨逸の婦人のお話にて、「腫物のために醫者から肉食を禁じられ、一週間全く、日本食をさらねばなりませんでした。ところが、毎日充分食べての一週間の後に、身體は疲勞しやすく、睡氣を催しやすく、一寸の道もあるいても疲れてしまつて困りました、やはり私共は體質が違ふのですね」とのことでした。この牛乳がなくなつた獨逸で、生れたての子を育てられず、さあ大變と、母親が、自分の乳をのませようとおせるのですが、永い間の粗食と空腹にこらへて來た身には乳の出ようもありません。コンデンスミルクはとて高くて手に入りません。詮なくキャベジを煎じてのませるのです。榮養にならないはまだしも、このた

めにすぐ腸をこはして、死亡致します。最愛の我が子が、火のつく様に、夜となく晝となく餓ゑて泣く、その聲さへ次第によわつて行き、じり／＼と衰へるその子を抱へて、母親は困憊して、神經は焦ち「この上は私の血をすゝつて生きて呉れ」とさへ叫んでゐるのです。

○物價騰貴とか住宅拂底とかいひながら、それでもまだ、我が國では食物に、衣服に、住居に、さほどの苦痛をうけて居りません。ことに子供は、充分たべて、充分著て、しかも、少し自由のきく親達は、あつてもない、かうでもないど、三度の食事にも、おやつにも子供の發育のために心を碎き、流行のおもちやを興へることも惜しみません。なかには、食はずぎで、醫者のお世話になる子供も少くありません。食べるのがいやになつて、お菓子をおもちやにして居ることさへよく見うけます。それですのに、戦禍

をまともにうけた中歐諸國では、子供はだゞ食べた
いのです。偶々、漫遊に通りがりの訪客が、慰め
るつもりで、おもちゃを興へますと、これをもつて
喜ぶかと思ひのほか、しばらくちつと見てゐますが、
やがて、力なげに手にとつて、それを甜め初めるの
です。お腹がすいてゐるのですから。

○
かの國で、缺乏したものは、牛乳ばかりではあり
ません。あらゆる食品ですが、わけても、砂糖は長
いことたべられず、政府から切符でわりあてられた
一つか二つの角砂糖を、勿論、つかつてしまへば、
あとはありませんから、それを室の真中につるして、
之を眺めて、「砂糖々々」と心の中でお念佛のよう
にいひながら、その下でお茶をのみます。最後にやつ
と一人づつ、こわく／＼に一甜めして、舌鼓みをうつ
のださうです。いよく／＼それもなくなつては、滋養價
値の全くないサツカリンを代用するようになりまし
た。お茶といつても、これまでのようなものはありません
から、莓の葉を乾して代用にします。煙草好
きも、今は、薔薇の花の散つたのをひろつてそれを
まいて吹かしてゐます。これ迄のように、知人を晩

餐にまねくことも出来なくなつて、大抵のお客は食
後に來て頂くことになり、強ひて食事を共にするこ
いふ場合は各自お辨當御持參といふことになつたそ
うです。そのお辨當も蕪のまぎつた黒パンで、それに
ジャムがついて居ます。そのまたジャムが大根や蕪
を煮てそれにサツカリンを入れ、染料でジャムらし
い色をつけたもので、味と來たらお話にならないそ
うです。戦後來朝されたあちらの方のお話に「先日獨
逸から友人が來て、故國に何か送りませう。何がよ
いかと相談しましたら、その方がジャムをと申され、
私はジャムなどは、不賛成でしたが、いゝえ日本の
ジャムは莓もよいものを、砂糖も本物をつかつた上
等なので、あちらに送れば喜びますとのこと、私は
こちらへ來る迄、ひどいジャムにもうあき／＼しま
したから、ジャムといふ名をきいてさへ、まぎ／＼
と、あの大根と蕪のごたまぢが出て來て氣持ちがわ
るくなるのです」と。

卵についても同様で、一年に一人がやつと四つ、
それもなか／＼高いのです。また、いくらお金を出
しても、四つ以上は一人に割り當てられません。日
本のお正月ともいはれるクリスマスを、せめて樂し

くと思ふ心で、その四つの卵を買ひためて、この時のためにとつておいたのが、いざ使はうとしましたら、皆腐敗してゐたといふ、悲惨な滑稽がありました。

○ 戦前に貧民階級であつたものは、今は殆んど餓死するもの、病氣になつて死を待つものなどで、救済の手もどゞきかねるのですが、當時、中産階級のもの、今は、貧民の生活に陥つてゐるのだらうです。餓ゑをのがれるために、すべての財産をなげうつてしまつたので、住居としては、地下室を借りうけ、その冷たい室に、燈火もなく、たゞふるえて、空腹のまゝ夜を明かします。賣れるものゝかぎりを金にかへて、食べてしまひますので、ベットさへないので、あちらの風俗でベットがないといへば、板敷の床にねるのです。この不衛生のためにまねく病氣がまたひどいことは申す迄ありません。

子供は養分不足で、神經が鋭くなつてゐますので、大變に泣きやすく、また、喧嘩もよくします。一寸さはずとも、ワーツとなきます。それを叱る勇氣もありません。疲れてゐて無理もないのですから。子供の骨なしや、せむしは澤山ですが、大人でも挫骨症

にかゝるのは非常なもので、一寸つまづいても、すぐもう、骨が挫けます、つまり灰分が不足して、大變にもろくなつてゐるのです。

饑ゑたる獨逸の子供の

ために!!

愛に國境なしと申しますが、ことに、子供に對して情の深い私共日本人は、かくまで苦しむ子供等をたゞ、手をつかねて死に渡すことは、忍び得ません。零細な志も、集れば、幾分慰めを與へることも出来ませう。本誌は、この御志ある方々のために斡旋の勞をどることに致します。就ては、便宜のため、一口、二十錢とは致しますが、いかに小額でも、小爲替で、東京市本郷區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、黒瀬艶子宛にお送り下されば、その主旨の届く様に取計ひます。

獨逸の兒童は如何にして成育するや

獨逸大使館 チール嬢

チール嬢は、獨逸大使官參事官の令嬢で、戦前にも來朝されましたが、近く昨年八月また父君の御赴任と、もにこちらに來られました。戦時中は、本國で、託兒所に於て親しく育兒の事を學ばれましたが、今度、本誌のために、特に、御寄稿下さいました。

(編輯係)

獨逸の兒童は如何にして成育するかと云ふ問題に答へますことは、容易のことでは御座いませぬ。夫れは、勿論、兩親の身分(地位)と意見とが大變關係するのであります。乍併其例として、彼の貧困と缺乏の裡に生れ、其實母の養育を受くることが出來ずして、幼時より他人の救助と愛とに頼り、若し公共的慈善設備の恩を受けない場合には、死滅するより他なき兒童に就て聊か述べてみませう。如此兒童は如何にして成育するでせうか。母は可成速く金錢を得ることを考へますから、晝間は其兒童を乳兒養育所に托し、安心して自己の業務に就き、晩になつて業務を終へて、歸宅の時兒童を同伴するのであります。

す。一室三十人以下の兒童の居る養育所に於ては、無論私人の家庭に於けるよりも、多くの秩序と規律とに注意しなければなりません。如此獨逸の兒童には生誕後間もなく、教養を施すのでありまして、例へば彼等は一定の時間毎に、即ち始めは二時間、夫れより四時間の間隔を置いて乳を得ることを覺えさせられるのです。此定則は最初に良く守らねばなりません。夫れは兒童を人工的に養育すると、母乳を與へるとの區別なく、時と場所に構はず、感心すべき忍耐で、兒童の欲するまゝ、乳を與へる日本のお母さんの眼には、獨逸の乳の與へ方は子供に對する愛の無いように見えませうが、日本の與へ方はどうしても眞似られますまい。何故と申しますれば、日本で一般に行はれます通り、母が乳兒を背中に負ふ用のある處へは何處へでも一緒に連れて行くこと云ふことは、私共の獨逸國では致しませんのです。夫れで私が、あちらに居りました時、過度の心配を致し

ます獨逸のお母さんに其の事を話しましたが、私の言ふことを信せず、何度も『いゝえ、そんなことが出来るのですか、そんな事をして子供が育つものですか』と申しました。獨逸の乳兒は生後數箇月間は唯仰臥させて置きますのです。朝早くお母さんは子供を布片や毛布で暖かに蔽ふて『クリップ』と申します、養育所へ連れて參ります。そこで看護婦が子供を受取り、お湯を使はせ、體量を測り、清潔の衣服を著せ、手摺付の臥牀へ入れます、夫れから、子供は哺乳器を與へられると、哺乳時の以外は終日眠り通して居ります。小寢臺で乳兒を養ふことは、一番困難の事ですが、唯一ツ良いことには少くとも始めの四五箇月間母が其子供を親から養ふことです。併し總ての母に此任務の大切なことを會得させよう、色々苦心して居りますが、未だに反對が御座います、勿論工場に勤務して居ります母親が二三時間毎に仕事を中止して、子供に乳を與へ、猶其上一定の道を往復すると云ふことは、誠に煩はしいことで、殆んど不可能のことで御座います。そこで次の様なことをしたらどうだらうと云ふことになりました。即ち母親は晝間三度子供に乳を與へ、其他の三回は

哺乳器を以て養ふのです。則ち子供には牛乳、燕麥漿と滋養糖との養分ある混和物を與へるのです。母親が半年以上子供に乳を與へると云ふことは獨逸では、誠に稀のことであつて、子供が大凡半歳になりますと晝は粗粉の粥、米粥などの淡泊なる食物竝に消化の容易な野菜を粥に入れて與へ、段々に養分を多くするのです。野菜を早くから子供に與へることは非常に必要なことです。此野菜には、骨の生長を助ける鹽類を含むからです、最初の半箇年程經過致しましてから、先づ椅子に凭る稽古をさせます。非常に骨が柔かいので、容易に脊椎の彎曲が出来ますから、背中を椅子へ當てます。子供は餘り柔弱に育てず、朝早くより、新鮮の空氣に馴します。

約一年經過致しますと、歩行と談話の稽古を始めまして、注意することの最も困難な時が來ます。何でも自分の周圍の出來事に就ては、澤山興味を持ち、總ての人々を友人扱ひにするのでありますが、決して子供の氣儘にしてはいけません。さもないと總ての人々が自分の思ふまゝになると云ふ考を持ちますから、さうなると是等の兒童は忌はしき、小暴君こはまごになり、少しの間でも、獨りで置きますと、泣き出し、

子供心にも總てのものが自儘になると思ふのです。一度彼等に此自儘を許したら、もうどうすることも出来ません。私が彼の養育所に勤務中、遊ぶ爲めに子供を馬車から下した處、他の者は其兒童といつまでも遊ぶ義務があると思つたのには大層困つたことがありました。兒童が再び寝かされた時、咆哮號泣が始まり、三十人の兒童は人々が騒ぎに堪へられぬ時の來ることを望んで、極端まで自分の意志を貫かんとしましたが、私は其内の一番騒ぐ兒童を強く打ちました處、大變な效力がありました。夫れから又大層騒ぎました。夫れでも效がなかつた時、とても私ではいけないと思ひついて、黙つて仕舞ひました。他の者も此兒童のする通りにしまして、三十人の兒童は静まりました。言ふことを聞かないこと、氣儘の振舞を小さい時から充分制することは出来ません。子供は分らないものです。仲々狡猾のもので、普通に考へるより以上です。若し兒童が泣いた爲めにこちらの心を和らげたらば、始終兒童を増長させ、あまやかすことになります。私は子供の時代を日本に過しましたが、日本人は是に就て別の考を持つて居ります。私の両親が話しますには、子守の居る前では、決して私を打たなかつたさうです。何故と申しますに、子供の打たれるのを見ますと、子守は直

に憐憫の情を生じ、私を慰めようとしたからです。若しそれを致しましたら、無論子供を懲罰すると云ふ目的が無になるわけです。私の國には『自分の子供を愛するものは夫れを懲らせ』と申す諺語がありますが、是は誠に良い語で、若し両親が其子供を不行儀であるか、氣儘をするかの爲めに打ちますのは眞實の親の愛から來るのであります。何故と申しますと親は子供の安全な望むのでありますから、氣儘とか、言ふことを聞かないとか、偽を言ふとか云ふことを、小さい時に除かないと、遂には習慣となつて、子供の害になります。仲々除きにくいものですから、そう云ふ悪い習慣を以て、大きくするより、子供を打つて、悪習慣を除く方がよろしう御座います。兒童が三歳に成りますと、養育所から幼稚園へ入れます。そこでは遊戯と小手工を替り／＼致しまして、紙で美しい人形の御道具を折つたり、粘土で人形の料理場の器具を造つたりさせます。それから段々大きくなりますと、人形の著物や帽子を針で編みます。如此兒童は、手工を致しまして、高く買つたものより自分で造つた物でよく遊ぶことを覺えます。幼稚園では、又兒童の體育のことに就ても注意致し毎日だけでなく、一週一度沐浴致させ、食事後晝寝をすることに嚴格の慣習をつけます。(以下次號)

看過され易きことども

醫學博士 長尾美知

○自然力の利用

發育の途中にある兒童の身體に關して、最も注意すべきことは、自然力を適當に利用することであり、ます。自然力と申しますのは、土、水、氣及び日光の四つです。

土は即ち土砂で、兒童を土にしたしませることで、す。これから時候もよくなりますし、子供が素足で土を踏むことが出来るようになるのはよいと思ひます。砂場で相撲をやらせるとか、また危険のないやうに注意すれば、裸足で身輕な服装をさせて、花壇の手入れをさせるなどもよいでせう、子供は手づかしたがやし、自らまいた種が芽を出し花がさくやうになれば、大變興味をもつものです。泥いぢりといふことは子供等のよろこぶ遊びで、これがまた、どんなにか身體のためによいことなのですから、例へば素足で怪我をせぬよう、また、一寸した傷でもあ

ればそこから不潔物の入らぬようになど相當の注意をはらつて、せいよく、子供は土に親ませたいものです。

水は、淡水、若くは海水であります、殊に海水は鹽分を含み、刺戟性を有して居るので、皮膚を強固にし、身體を強健ならしむる効果が甚だ大であります。それゆゑ、海水浴がよいことは、今更申上るまでもない事ですが、海水で摩擦することも、また、よいことです。これは大に獎勵したいと思ひます。

氣は空氣であつて、これの新鮮か否かといふことは、兒童ことに、年齢の少ないほど、身體に影響することが著しいのです。家庭でも、幼稚園でも、空氣の清淨といふことには、充分注意しなければいけません。ことに幼稚園のやうに多人數一室にある場合には、必ずいつも室のどこからか換氣が出來てゐるやうに氣をつけ、また天候氣候のゆるすかぎり遊戯は戶外でさせるやうにした方がよいのです。

日光が細菌を死滅させる作用のあることは、誰も知つて居ることですが、實際は、日光浴といふことが、案外、疎かにされてゐるようです。ことに發育盛りの幼年期には、その皮膚を強固にすること、身體の新陳代謝を増進させる點に於てその效力は偉大です、室でも子供の室は日當りのよいといふことを第一要件にすべきで、太陽のお見舞をうけない所は、反對にいろいろの病氣のもとがひそみます。

この四つの自然力は、一向、金もかゝらず、何處でも相當に、得られるもので、解りきつたことであるのに、案外、人は注意をはらはないのです。これらのものは、實に非常な天の恵であつて、決して等閑にすべきものではありません。ことに、これから時候もよくなり、活動もしやすくなるのですから、家庭でも、幼稚園でも、發育旺盛な子供達のために、充分この四つの自然力を利用するように心を用ひたいものです。もし、この四つの力を同時に利用するような、方策を考へるならば、その效驗は、それこそ神のごときものがあらうと思はれます。自然にしたりし、天然の恩恵にひたつてゐるといふことは、

すべての人の心身をのび／＼とさせて、氣分から云へば、こせつかない、おちついた、張りのあるものとします。ことに、年不相應の神經質な子どもなどは、この四つの要素の利用がたらないためといふことが多いと思ひます。都會の子供には、ことに氣をつける必要があります。

○茶匙の使ひ方

このごろは、大抵の家庭で、少し子供に咳が出れば、吸入をさせます。これはよいとして、その液をつくる時に、薬をはかる茶匙の使ひ方に氣をつけねばなりません。今、吸入料の藥品の割合を申しますならば、

大人……重曹を茶匙に一杯、食鹽を同じく二杯
子供……重曹を茶匙に半杯、食鹽を同じく一杯
右の分量を二合纏に入れて纏の肩まで、一杯にこれを入れます。さうすれば、大人ですと重曹一%食鹽二%の液子供のですと重曹〇・五%、食鹽一%の吸入料が出来るわけです。(尚、子供の場合には重曹を一杯とリ、スリンを四杯合せて同じく二合にどかしてもよろし)吸入にこれらの薬品を用ひますのは、重曹

は粘液をとかす作用があり、食鹽は粘膜に作用して、その炎症を治する效があるからです。

又、こゝに茶匙の使ひ方です。先日私がある所へ往診をしました。その患者は氣管枝加答兒でありました。其前日、私の診察所に見えた時に、吸入をすることをすゝめておきましたが、吸入料は自宅で作ることが出来るとの話でしたから、その意にまかせて置きました。患者の家でふいと其枕下にあつた吸入料を入れてある罌を見ますと、液が白色に濁濁して居る、之は變だと思つて何を吸入料にして居るかど聞いて見たら重曹を使つて居ることでした。重曹としては濁つて居るのは不思議だと思つてよく聞いて見ると、四百瓦の罌に水を容れて、其中に重曹を茶匙に一杯入れるとのこと、而して其重曹を匙で測るのにはどうするかど聞いてみたら山盛にするこの事、其れで事情は分りましたが其れは誰に聞いてさうして居るかど推問して見た處が、其返事には、昨年インフルエンザから肺炎を起した時、看護婦を雇入れたが、其看護婦から聞いたこの事でした。して見ると、粉末になつた薬を、匙で測る方法を其看護婦が知らずに出鱈目を人に教へたのでかう云ふ誤が

起つたのであることを知りました、吸入料ですから大した影響は無いとしても、之は又甚しいことと思ふ。其同じ日に、私は又他の患者へ行つて腸洗をやる食鹽水を作るのに、其處に居つた看護婦が、又同様に匙の使用法を心得て居らなかつたので、よく教へて歸つて來ました。

同じ匙を用ゐて薬物を測るのに、其處に何等かの規定が無く、唯山盛にするとしては、其山の盛り方の山の大小によつて薬物の分量に至大の影響を來すことは明瞭です。匙で液體をはかるのならば、何の造作も無いことではありますが、粉末になつた薬物を測る場合には、一定の規約を心得て居らねばなりません。即ち、匙で粉末の薬を測るには、山盛にしてはよくない、必ず其匙の中に盛つた薬物の上の面を平になる様にへらの様なものを斜に當て、擦過するが良い、そうすると匙の中にある薬物の面が平になる。或は又薬物がボール紙などの厚紙の筒の中とか廣い口の罌とかに入つて居るものならば匙で薬物をしやくりながら、外に出す前に其容器の口の内縁で匙の上向いて薬物の入つて居る所をこすつて取り出す様にすると綺麗に薬物は匙の中に入つて居つて其上面

は平面か或は多少中高の面を作るものです。かうして重曹なり食鹽なりを茶匙で測つて取ると云ふと書物に出て居る通り、約四・〇瓦に相當するので、之を四百瓦なり八百瓦なりの水に溶解すと云ふと吸入料に適當な約一%なり〇・五%なりの重曹若くは食鹽の溶液が出来、又其二杯を一リートル即ち五合の水に溶解すと云ふと生理的食鹽水が出来る譯です。今私は茶匙で測つた藥物の分量を參考の爲めに記載して見るゝ次の如くです。但し其使用した匙の藥物を盛る部分の大きさは長徑四・二糎、横徑二・七糎、高徑〇・五糎のものでした。

硼酸(細末)

二・〇

硼酸(結晶)

三・〇

食鹽

四・五

重曹

四・八

かう云ふことはかなり小さなつまらぬ事柄ではありますけれども實際に於ては非常な影響のあるもので、看護婦なり、又若い經驗の少ない醫師などもかうしたつまらぬ事を心得なかつた爲めに飛んだ誤を惹き起すことがあります。家庭でもこれはよく心得ておくべきで、吸入料のやうなものは、劇薬でないから生命にかゝはらぬとはいふものゝ、やはり薬には程度があつて、吸入料にしても、ある濃さに於てそ

の效力をあらはすので、白濁が出来るほど濃いものでは折角の薬の役をしません。

○檢溫器熱

檢溫器について、家庭や、幼稚園で、その使用の上で御參考にもならうと思ふので、近頃、自分のした失敗の經驗をお話しませう。

それは二十六歳の患婦に起つたことであつて、ついで二、三週間程前に某醫師の紹介で自分の處へ診察を頼みに來ました。自分の診察を受けたいと云ふのは其患者が三箇月程前に分娩をして其後輕熱が在つて其れがどうしても取れない、其處で兩三名の醫師に見てもらつた處が、甲の先生は産後腎盂炎を殘して其れが爲め熱が出るのだと云ふし、乙の先生(某博士)は多少膀胱にも故障があると云ふ、丙の先生は呼吸器専門を標榜して居るのであります。其先生は少し肋膜に故障が在ると云ふので、其云ふ處が皆異ふので其何れが正當であるかと云ふ判定をしてもらひ度いと云ふ様な譯でした。其れから自分も兎に角責任が大いので随分注意して檢診をしましたが餘りの確の成績を得ません。尿も注意して再三検査して見

たが、其變化は明かでない、觸診では多少右の腎臓が過敏かと思はれたがどうも腎盂炎の症状も確ではない、又膀胱加答兒の症状も自覺的、他覺的共に陰性と云ひ度いのであります。其れから胸部の所見も自分には確かにさうとは思はれないので暫く経過を見ることに置いて、健胃劑を主として時々解熱劑を與へて見ましたが食慾も進み全身症状はずん／＼よくなるが三十七度二、三分の熱がどうしても取れない、其患婦も亦其夫もかなり神經質なので連りと其輕熱を苦にして居る、自分も兩三回診察をしたがどうも熱の原因を見出すことが出来ません。かれこれして居る間に二週間程経過してしまひました。

其内に不意と自分の頭に思ひ浮んだことは檢溫器のことで檢溫器を調べて見度いと思つて、其家で使つて居る檢溫器を持つて來さして、見ると二種類の檢溫器を使つて居る、一ツは和製で〇〇檢溫器で而も特製と銘をうつつある。他の一は何處製か分らぬが無銘である、まさかにも自分も此二ツの檢溫器が揃つて居るとは思ひませんでした。所がどうでせう右の檢溫器を正確な檢溫器と比較して見た所が次の如き誤差を見出したのです。

檢溫器第一號(〇〇特製檢溫器)	誤差(十高、一低)
三十五度—三十六度	十・〇・六
三十六度—三十七度	十・〇・四
三十七度—三十八度	十・〇・二五
三十八度—三十九度	十・〇・二三
檢溫器第二號(無銘品)	

三十五度—三十六度	十・〇・五
三十六度—三十七度	十・〇・三五
三十七度—三十八度	十・〇・二五
三十八度—三十九度	十・〇・二一

此成績を見た時には自分も呆然たらざるを得ませんでした。檢溫器のくるひのある事は自分も思はぬではなかつたが銘の異つた檢溫器が二種類とも此様なくるひが在らうとは思像の至らなかつた處です。其處で此事を患者によく話して聞かせた處が現金にも其れまで腰が痛い胸が所々痛むなどと云つたのが拭ふが如く無くなつてしまつたのです。同じくるひにしても三十八度以上の時ならば〇・五位のくるひが在つても其影響は左程でも無いが、三十六乃至三十七度の最も肝要な處で〇・五とか〇・六とかの誤差、其れも低いのなら兎に角高いのであるから人を迷はすことが少なからずである。

近頃金澤醫專の十全會雜誌で原田四郎氏の「檢溫器の誤差に就て」と云ふ論文を見ましたが同氏は、大阪市立衛生試験所で大正六年十月より同八年三月迄の滿々一年半に百個の檢溫器の誤差を檢定して次の成績を得て報告して居ます。即ち

正しきもの	二二%
二分以内の誤差あるもの	四五%
標準寒暖計より低きもの	二%
二分以上五分迄の誤差あるもの	二五%
五分以上の誤差あるもの	六%

此成績で見ると〇・二度以上標準より高き誤差を示すものが百本の檢溫器中に三十一本ある譯です。檢溫器は醫師患者共に唯一の羅針盤と心得て居る次第であります之れでは誠に心細い次第で此點に就ては檢溫器を供給する製造家の猛省を煩し度いし又一面には診療に従事する醫家も大に心すべきことと思ひます。

神戸に生れた英語遊戯會について

神戸幼稚園の あ る 保 姆

近頃幼児教育の問題に就いて、色々考へられたり、研究されたり、またやかましく云はれたり致して居りますが、其の中でも、つい最近、この幼稚園時代の幼児に英語を教へてどんなものであらうか、果してよいものであらうか、悪いものであらうか、効果のあるものか、無いものかと云ふ問題が出来たのも其の一つでございます。そして、その可否については色々の議論がございますが、實驗や調査を基礎にしたものは、極めて稀で、比較的獨斷的のものが多く様に考へられますが、然し又或る心理學の實驗にたづさはつておいでになる學者先生の御説では、此の時代に、語學の練習をするといふことが、最も大切であつて、又有効であるといふことが、心理學上實驗の結果明であると申されております。

折も折、私共の處では、つい此の頃熱心な會員達の努力に依りまして、愛兒研究會と云ふ會が組織されました、其の會の第一の事業として、試みられた

ものが問題の、幼児に英語を教へると云ふ事でございます。この英語のクラスの名を特に、英語遊戯會と命名致しました。それは相手が幼児でございますから、これを覚えさせるに謂ゆる教授の方法を用ひ度くない、どこまでも、幼稚園式の方法でやつて見たい。即ち、其の言葉は、先づ、幼児の日常生活のうちからとつて、これが知らず知らずの中に耳に聞き馴れ、言葉に發せられる様にと云ふのでございます。そして、其の方法は、全然遊戯的にして、興味を起し倦まずして覺える様にと、希望致しました。そこで、これに適當な先生の物色に取りかゝりましたが、外國人の多い此の神戸市でも、なか／＼私共の要求に叶つた人を見出すことが、むづかしいのは、流石の望月園長の顔にも、苦心の色が見えて参りました。勿論、此の事業は、幼稚園の仕事とは、何等の關係はございませんけれども、この特殊の會の生れるについて、初めから、考へたり奔走したり

して、ほとんど、獨りで凡ての勞を取られました。或る人は、申されました。「あれ程多い外國人の中で、幼兒に英語を教へる位の人は、幾らでもあるでせう」。けれども、この考へが、私共の先生を得ようとして居る考へと、全然意味も目的も違つてゐるのでございます。かう申せば、幼兒を扱つておいでになる方々には、何にも克く御了解と御察しが出来ることゝ存じます。此の時代に、最も發達の著しい發音、しかも、それを練習するに、最も好適な時期に、苦心なしに、覺えるといふことは、實驗の結果から申しましても、慥かな根據のある處でございませうけれども、其の方法の如何に依りましたは、しないより寧ろわるい結果になることを恐れるのでございませう。色々と苦心慘澹の末、Mrs. Leppard、といふ方に、お願いいたすことが出来ましたので、大變よろこびました。

そこで、一寸この先生について申し上げて置きたいと存じますが、此の方は、米國の人で日本へ來られてから、二十年餘りにもなりますから、日本語は、餘程流暢なもので、方言などのない極めて、上品な言葉で、普通の日本人は裸足で逃げねばならない位

でございませう。然も、幼兒には、永い間御經驗があまりでございませう。これが私共の希望の第一條件に叶つたわけでございませう。またそのマンナーは、極理想的に出來てゐられます。日本のよい點と、米國のよい點を合せて、而も互の長所をもつて、互の缺點を補ひあつた様な所も亦私共の希望の第二の條件に叩つたわけでございませう。

英語のクラスに加入した子供達

土地柄としても、さなきだに必要を感じてゐる處へ、親達の頭も、自分達の子供については餘程忠實に考へる様になりつゝある今日の事ゆゑ、かうした催しを大變よろこびました。

親達の多くは、「自分達がいゝ加減の年齢に成つて、外國語を教はつて、非常に苦心して困つた。そして、困つた結果もやはり充分に出來ないために、社交に、實業に、不便を感じて殘念であるから、子供には、さうした難儀を少しでも、除いてやりたい」と云ふ有がたい親心は、なか／＼強く深いもので、希望者はなか／＼多くございました。

然し私共の方でも、一時の氣まぐれや、物好きに

始めたことをごいませんから、さうした人々の希望を満すといふこと丈で満足は出来ません。そこで、幼児を身體と知力とを、標準にして、選擇致しました。また、加入しても直ぐに止める様な者も、除きまして其の数は、丁度六十人ほどございました。そしてこの中には、小學校の一年生位の子供も交つて居ります。

時間 一週に二度 火曜日と金曜日

方法に就いて

何分子供の数が多うございますから、便宜上男、女に分けました。(但し雨降りなどで、人數の少ない時は一所にいたします)。

マーチにつれて行進して圓形をつくりますと、先生は、一人一人順々に手をとつて、How do you do? と、いつて、子供の顔をのぞかれます。子供達は、顔をあげてキョロキョロと、させて先生の口のあたり筋肉の動き方、舌の動き方、齒の出方などをなかなか大人以上鋭敏に、細密に觀察いたして居ります。て、自分も同じ言葉を、無意識に真似ております。口をつぐんで、だまつて目丈を、キョロキョロしてゐ

るものもございますが、先生はなかく、巧妙な技量で、真似をさせます。さうして、全部一巡すると、How do you do? と云ふことは、

「今日は」と、いふことでございますよ。さあ皆さんで、一處に申しませう。こん度は、先生は聞いて居りますから、御自分達だけで、いつてごらん下さい等といつて四度も五度も繰り返へして練習いたします。一番はじめは、意味が分らない爲めに、子供自身何の興味も持つて居ないことが、よく分りますが、意味を聞いて後は、如何にも、ほこらしげに力をつけて申します。お天氣のいゝ日でございますたら、How do you do? が濟むと、It is a fine day. を申します。これも幾度となく、先生と代る／＼發音致します。寒い日ならば It is cold to-day. と、いつた様な言葉の練習をいたします。先生は、次に片手を前に差出して、one hand また一方の手を差出して、two hands と、申されますとして、其の手を打ちながら、I clap my hands 上に上げてきた、I clap my hands 後にして I clap my hands と、幾度も、位置を變へて申されますと、子供は一心不亂に、同じ動作をしながら、ついて申します。一つの言葉を幾度も

繰り返してゐても、變化があるので、子供は、退屈の色は、見えません。而も動作でもつて、言葉の意味を發音いたしますから理解も早く忘れることは、比較的ない様でございます。かうした言葉の練習が終ると、樂器にあはせて Here we go walking, Walking here we go, walking into the ring を、云ひながら極めて、リズミカルな步調で、輪の中心に入つて、參ります、この度は Here we go walking, walking, walking, here we go walking out of the ring を、いひながらもこの通りに返ります。かうして running の時は走り hopping の時はとび、Crawling の時は、はつて、凡て樂器に合はせて歌ひつゝ、動作を致します。これを又非常に子供がよろこんで、致します。かうした遊戲の中に、自然的に、外國語を聞きならずと、いふことは外國人の家庭教師を聘して個人教授を受ける時でも、到底出來得ないことだと云ふことを、つくづく感じました。また同時に、子供達の覺えのいゝことにも驚きました。側にある大人よりも早く覺えて、また、次の時には大人の忘れてゐる言葉を思ひ出すのでございます。然し、初めの二三度は、一向分らなさうでございま

した。従つて申すことも自信のない言ひ方が、見えてゐました。四度目位の時から、餘程變つて參りました。先生も驚きと、よろこびに満たされて、よるこんでおいでになります。日もまだ淺うございますけれども、言葉も克く覺え歌も克く歌はれる様になつて居ります。而も、私共の様な大人では、なか／＼うまく言へない發音例へば hammer, soldier, do, standing をいつた言葉の發音は、妙に先生そつくりの所があつて、實に聞き心地がいゝ様に思はれます。子供が、今現在發達しつゝあるこの發音を、耳に入つたまゝを云ひ得る仕合はせを感せずにはゐられないのでございます。女學校や、中學校の時期に成つて、言葉の發達の止まつた時分から始めて苦心した自分達と今日の子供達とを思ひ合せて、時代てふ環境が如何に人生に影響を及ぼすものかといふことをしみ／＼と、感じました。

ありのまゝを書きまして、尙皆様の御考へや御教示をあふぎたいと存じます。

幼児の發問の研究

黒 瀨 艶 子

○發問のはじめ

子供が、三つ四つになつて、言葉が、どうやらつかへるようになりますと、「これは何？」と見るもの聞くものについて、たえまなく問ひます。大抵の辛棒づよいお母様も、「うるさい子ねえ」とつひひたくなる程、聞きたがりまします。ある學者はこの時代を「質問クエスチヨニング 狂ニテ」の時とさへ申して居ります。この時期の「これは何？」といふのは「これは何といふ名？」といふつもりで聞くのです。幼児は自分に名前があるので、あらゆる周圍のものも名をもつてゐるといふことを思ふので、何でも、先づその名を知らうとします。そして外界の事物の名稱を覚えて参ります。ですから、この頃の幼児には、たゞ簡単に「何々です」と名を教へてやれば、それで満足して居ります。けれどもこれがいつまでもつゞきは致しません。五歳六歳七歳と次第に大きくなつて参りますと、「なに

？」といふやうな簡單な質問でなしに、「なぜ？」とさきくようになりまします。此「なぜ？」とさきく子供の心持には、またいろ／＼の意味がはいつてゐるようです。

○過去の經驗から判斷して

たゞ、單純に外界の刺戟をとりいれる事に忙しき子供の頭は、やうやく進んで、たゞ何でもかでもとりいれるといふことではなしに、あの小さい頭腦で、子供自ら考へるといふことを始めて参ります。この時に、自分に親しみのある、嘗つて知つて居る事柄でなしに、新しい、知らない現象があらはれて参りますと、子供は自分の過去の經驗でこれを判斷しようと思ひまします。ところが、それが、どうもうまく判斷しかねましますと、そこで、何故だらうと疑問をいだくようになりまします。次に私の經驗のうち二つ三つをおあげてみませう。

△嘗つて幼稚園で食事の時に皆うれしさに小さな

口をうごかして四人づゝならんでゐる机の一つを占めてゐたSさんが、突然、箸のはこびをやめて、

「先生！羊でしたつけ、紙をたべるのは？」

「えゝさうですよ」

「なぜ、紙をたべるの？」

(私は何と答へようかと考へてゐると隣のKさんが、すぐこれをひきとつて、

「そりあ君、わかつてゐるさ、羊は白いからさ」。

この答でSさんもすつかり満足しました。Sさんは自分が紙をたべないので羊の事が氣になつたのです。

△動物園に参りました時、水禽類のゐるところで丁度鷺鳥が、水掻きの働きをやめて、水の上を流れるように浮いて行くのを見て、Yさんは、ひとりごとのやうに。

「何故、あの鷺鳥は泳がないのに浮くのかしら」。

たぶんこの子は、大抵のものは水に入れゝば沈むものといふ經驗をして、また、鳥は泳いでゐれば、浮くがさうでないのに、水の上に流れるやうに行くのが不思議であつたのでせう。

△同じ所で、水の中に立つて居る鶴を見て、

「あら、この鶴は、なぜ松の木にとまらないんですか」と一人がききました。

子供は一つのことを經驗するとそれを何にでも應用するもので「松に鶴」「石に龜」といふ句を兄さんが復習してゐる傍できゝかちつたこの子としては、無理もない質問でせう。

△やはり動物園に行く途中でした。幼稚園の子供等にどつては大遠足のよろこびでありましたが、Mさんが、

「動物園はね、遠い／＼奥のくらい所にあるんですね。あそこには、猿や、熊や、兎が居るのに、何故、金太郎さんはゐないんでせうね」。

と、私の顔をのぞき込みました。Mさんは金太郎の話所思ひ出して猿や、熊や兎が居れば、きつと金太郎が居ると一人ぎめにきめこんで、この法則で、動物園に居る、金太郎のお友達を、考へて居るのでした。

△遊園のお池に金魚と鯉を見にまわりました時に、大きな鯉の間をいそがしさうにおよぎまはる子鯉を見て、一人が、

「鯉にも赤ちやんがある」と、いひますと、

○さんが、まるい眼をなほまるくして、

「おや、鯉にはお乳がない。先生 鯉はどうしておつぱいをのむのですか？」と。

○「何の目的で」といふ意味で

更に、同じ「なぜ」といふ問も、その意味は餘程進んだものとなつてまゐります。「何の目的で」といふつもりで聞きます。これはおぼろ氣ながらに、物事には目的があるといふことがわかつて來るためかと思はれます。

△物忘れをせぬために指を紙捻で結んで居りますと、I子さんが、

「これ、なぜ？」

「ご用を忘れないように。」

「どうして？」

「澤山に、御用があつて、かうしておかないと忘れます。」

「さう、大變ね。」

△眼鏡をかけるようになった時、S子さんが、

「どうして眼鏡をおかけになるの？」

「お眼がわるくなつてね、かうしないと、皆さんの

お顔が二つに見えますから」と、うつかり眼の様子をはなすと、S子さんは、不思議さうな顔をして「あら、それぢや、眼鏡をかければ、四つに見えるでせう。眼が四つおありになるのですもの。」

子供と一日遊んで居りますと、幾度かこの意味の「なぜ」といふ問をきゝます。「なぜ、お母さんのお箸は黒いの」とか、「なぜ、木の葉は落ちるのでせう？」とか、かなりはこの種類の問をするものです。

○物の本性に關する疑問

幼ない子供の頭にも、昔からの哲學者の解決し得ない、物の本性に關しての疑問がおこるものです。

「なぜ、私達は眼が二つあるのですか」とか「なぜ金魚は赤いのですか」とか「なぜ、馬は足が四本で、私達は二本なんですか」。など、いくら大人でも、答へようのない質問を致します。かういふ時にまた、子供は子供相當に、さつさと自答してかたづけたくことも多いものです。

△ある風つよい日に庭にある一本の細い樹を見つめてゐた六歳のK子さんが、

「何故この木はこんなに細いのでせう？」

と私に聞きました。さて何と答へたらよいかと思つてゐますと。

「あゝ、わかりました。風があたるからですね」と、さつさと自答して満足してゐました。

この意味での「なぜ」といふ問に對しては恐らくいくら大きくなつても答を得られないものが多いこととせう。物の根源といふところになりますと、全くわからなくなります。かういふ問を子供からかけられる時にはいつもある哲學者が、「我々人間は何故(Why)といふ問を發する資格はない、たゞ「どういふ様に」(How)をきく得るのみである」と申しましたことを、心に思ひおこします。

○物の行衛を

また、幼兒の質問のうちには、物の行衛を氣にしているのがあります。私共大人の頭は、いろ／＼人事上の考へることが忙しいので、眼にふれるもの、耳にきくものゝ一々出所や、行末をそんなに心配する餘裕はありませんが、幼兒は、なか／＼、物の行衛を氣にするもので、「風は何處へふいて行くのでせう?」とか、「あの鳥は何處へ行くのでせう?」とか

申します。

△ある日、散歩に行く途中に、木の新しい切株があつたのを見つけた七つになるAさんは、

「木がきられましたね。この切つた木は何處へ持つて行つたのですか?」

と、切株の行衛までも心配して居るのでした。

○物の起源を

ものゝ行衛を心配すると、もに幼兒はまた物の起源をたづねるものです。

「坊は誰から生れたの?」

「お母さんから」

「それちやお母さんは?」

「お祖母さんから」

「お祖母さんは?」

「お祖母さんはね、またそのまへのお母さんから」

「それちや、そのお母さんのお母さんの、そのまたお母さんの……一番初めのお母さんは何處から

來たの?」

「さうね、それは神様がおつくりになつたのですよ。子供は、次から次へとさかのぼつて、どう／＼

私共が答へられなくなるまで追ひつめることがよくあります。

△さむい冬のある日七つになるTさんが、

「先生！一體、水といふものはどうして出来たのですか。」

「水はね、昔から出来てゐるので、神様がつくつて下さつたのでせうね。」

これをきくともなしにきいてゐたKさんは

「さうすると、神武天皇の頃から出来てゐたのですね。」と、

△秋の一日、散歩の折に、ある大樹に毒茸があるのを見つけ、毒茸を教へられてMさんが、

「どうして、毒茸といふの？」

「あの中に毒がはいつてゐますから。」と答へると、つゞけて、

「何處から毒がはいつて來たの。」ときゝます。

傍のFさんがこれをひきうけて、

「それは木がきたないからさ、さうですわね先生！」と、上手にこたへてくれました。

△庭に遊んでゐた二三人の子の中七歳のSさんが、急に思ひついたやうに、

「花は何から出来るのでせう。」と、ききました。一寸答へに困つて、「何からでせうね。」と一緒に考へて居ますと、

「あゝわかつた、種子からね。」と自答しながら、

「でも、種子は何からでせう？」とまた質問をすゝめて居ましたが、やがて、

「あゝ、さうだ、わかつた。種子は泥どろからですね。先生！さうでせう。」

と、問ひかへします。

「いまにあなたが大きくなるぞわかりますよ。今は少し難しいから」

といへば、

「あゝ、さう、學校へ行つてえらくなればね。」と、満足して居つた。

○大さご距離

だんたく子供心が發達して、ものゝ大さや、距離の觀念が出来て參りますと、「此處から品川迄どの位ありますか。」とか、「お星様迄どの位遠いのですか。」などと問ふようになります。

△ある時、七つになるSさんが、

「月ほどの位大きいのでせう?」

「どの位でせう?」と、答へかたを考へてゐますと、子供の方から、

「随分大きなものでせうね、この机、傍の机をさす、幅三尺、長さ六尺位のもの」の半分位でせうね。」

と、申します。随分大きいといひながら机の半分といふのですから、大きいといふ概念がどの位のものかわかりません。Sさんはこの時つゞけて

「天は高いんですね、なせ、あんな所にお月様は居るのでせうね。」と、ひとりごとのやうに申して居りました。

○いろいろの間に答へるには

子供がよく、質問しますのは、申すまでもなく、そのやむにやまれぬ好奇心から來るのですが、また、たやすく發問し、それに答へられるといふことが、好奇心の發達の上に大切なことで、聾啞の子供が、同じ年齢の健兒ほど、好奇心が發達して居りませんのは、彼等がたづねることが出來ないためであるといふことは、多くの心理學者のみとめて居るところです。

知らないものに充ちたこの世界にやうやく目覺めかけたその時期には、何でもかでもきゝます、「何?」「何?」ときいて居ります時はその答はごく簡單でよいので、くたくしい説明はいりません。子供はその答をそのまゝ信じます。この輕信といふことが、この時期には丁度よいので、もし、あの質問狂といはれる程に盛んに「何?」を連發する時期に、一々、與へられた答で満足出來ないようでしたら、たつた一つの質問の解決にあの小さな頭は、つかれはてしまふでせう。

「なせ?」といふ問をするようになりましても、我が、熟考の結果「どうしてもわからない」と、行きつまつた最後の場合に出す「なせ?」とは違つて、開そのものが、どれ位眞面目なのかと思はれる場合があります。あの遠慮なしに、何でもたづね、また輕しくその答を信じますのは、たゞ、好奇心の盛なためといふばかりでなく、波のうねりのやうに、たえず變化して行く、幼兒の思想が、次々にと轉じて、まごまりがつかないといふこともあらうと思はれます。コンペイアといふ心理學者は子供のこの發問の状態を次のやうに申して居ります。

子供は決して一物を固執してはゐない。受取ることも早いだけに、また、たやすくこれを忘れてしまふ。まだ答がおはらぬうちに、もう、自分のきいた間を忘れてしまふものである」。

「かういふ場合には、これは眞の好奇心といふよりも、氣まぐれで、子供が、單に話すために、その演説の力をしめすために間を發するので、恰も鳥が歌ひ囀る様なものである」。

これは子供にいつも接してゐない方にはあまりひどい言ひかたのやうに思はれるかもしれないが、決してこれは誇張した言葉ではないと私は思つてゐます。何と申しませうか、子供の發問の態度は時に誠に呑氣なもので、馴れない人はこの呑氣さに腹を立てることさへあります。「折角きくから一生懸命に説明して教へてやれば、子供の方では、もうさつさど他のことを考へてゐるのですもの」と本氣になつて不平をいはれる方もありますが、こゝが大人どちがふどころであらうと思ひます。

また、稀には「なせ？」といふことが口癖になつてゐる子供がないでもありません。好ましいことではありませんが、家庭で、家族の間にどうもいつも反

間をするといふことがあり、或は理屈ばい兄弟や兩親があつたとしますと、事柄がいつもなめらかに運ばずに「なせ？」とか「どうして？」とか一々ぶつかつて行くようになります。これを見聞する子供は、ほとんど習慣的になせと申すようになります。嘗つて當時六つの工子さんが、幼稚園で「なせ？」を連發するのでした。「もう皆さんお室におはいりにませうね」。といへば、「なせ？」とさく、「お辨當をいたゞきませう」。といへば、また、「なせ？」。それがいかにも反射的に思はれます。可笑な子だと思ひながら、なるだけこの癖を出す機會をつくらぬやうにと氣をつけて居りました。ところがある時、工子さんのお母さんが、當時四つになる弟のYさんをつれて來られました。姉さんと一緒にしばらく遊んでゐましたが、やがて、お母さんが、「さあもうYさん、かへりませうね」といひますと、Yさんは「なせ？」と申しました。その様子をみるとこの子は遊びが面白くてたまらずに、もつと遊びたいから「なせ？」といつたとは思へませんでした。「なせ？」といひながら、さつさとお母さんの方へあるいて參ります。そこでさつと伺つて見ましたらばそこのお宅ではどうも理屈

ばい方々が多くて御老人との間にいつも「なせ？」といふような心持がたゞよふてゐるといふことでした。お氣の毒だと思ひました。

かう考へて來ますと、子供の發問に對して、その眞面目さといふものがいかにも難しいように思はれませんが、實際子供にあたつて見れば、これはたやすく洞察されることです。「なせ？」ときかれたその瞬間に兎に角、子供の頭腦を混亂させず、偏見や、迷信におちいれないように答へることが大切ですから、全く子供に答へることは、

○一つの技術

どいつてもよいと思ひます。理屈よく考へてゐると、かへつて餘計なことを言ひ過ぎて、あのデリケートな頭をごた／＼にしますし、さうかどいつて、うるささうにおひはらへば、折角のやさしい心持をきづつけます。殆んど限りのない、豫期しがたい、その折々の質問には、全く臨機に取扱ふといふほかはありませぬ。たゞ私のいつも思ひますことは、どうして私共の頭は、子供からかけはなれてゐるといふことです、子供同士で問ひ、答へてゐるのをきい

てゐますと、いかにも自然で、所謂無邪氣です。どうも私共が答へると餘計なことがはいりすぎて簡明にまゐりませぬ。五つや六つの子供が地球が圓いとか、太陽のまはりをまはつてゐるなど、いふことを知らないからと云つて、その子は不幸だといふわけもありませぬし、むしろ大きくなつてからわかることは、幼ないころに知らせなくてもよいことなので、すから、しかし簡明にと思つて、よいかげんな答をするのはいけないと思ひます。前にも申したやうに、子供の發問にはいろ／＼の種類があつて、そのどれもこれも、子供があつての未發達の頭腦で納得が出来るやうに答へてやることは難しい、否、不可能な場合さへあります。ですから、

○聞かせたくないこと聞かせ

なくて、よいこと

を問はれた場合には、曖昧に胡麻化してゆくよりも、「坊が今に大きくなればわかりますよ」と、いつた方が、かへつて子供に對して親切な仕方だと思ひます。私共人間にはどんな學問をしても、尙わらないことがあるのですから。わづかこの世に來て五年か

六年しかたゝない子供が、何もかもわからう筈が
ありませんもの。そしてまた、「い、まはわからない」と
いつたからとてそのために、幼児のあの盛な發問の
流を堰きとめるといふ心配は更まにないと思ひます。
よい加減に答へられて、それが迷信となり偏見とな
つて彼等の一生をわざわひするものよりも、どんな
によいこととせう。

○子供と一緒に考へる

全く思ひがけないことを、突然に問はれると、い
かに經驗をつんだ人でも、すぐ返答に困るものです。
さうかといつて不用意に答へて間違つた事を云つた
り、あとでとりかへしのつかぬような答をしてはい
けません。そこで、私はいかういふ時に、すぐに答へ
ないで、「さあ、なせでせう」と一先づその問をう
けとつて子供と一緒に考へるようにして居ります。
たとひ三十秒でも一分でもそこに餘裕をつくりませ
ど、こちらも相當のよい考へが出て參りますし、ま
た、一寸その餘裕で子供は大抵自分で何とか解決し
て行きます。(しかし子供が物の名をきく場合には單
にその名を簡單に考へてやればよいので、かうした

心配はいりません)それからまた、そこに遊び仲間が
二三人居る時には、子供同士でいかにも満足な答を
得てゆくといふこともあるものです。

私共大人の言動は、どうしても子供の心持にふ
かくはいたりやすいものです。—威信プレステイジセクションによる暗示のた
めに、子供は、大人、ことに、親や、兄弟や、先生
の言葉からつよい印象をうけてこれがことに幼ない
時には先入主となりやすいのですから—ですから、
たとい、子供の發問に氣まぐれなところがあるとし
ても、答へるのに不統一で、また出まかせでは子供
が迷惑します。

私共はなかくいろいろの事に頭が忙しいのです
から、子供に、しかも幼稚園などで大勢に次から次
へどたえまなく質問されると、うるさくもあり、不
機嫌にもなります。けれども、かうして子供は生ひ
育つてゆくと思へば、力のおよぶかぎり親切に、そ
してまた、子供相當の満足と與へるようにその質問
に應じてまゐりたいものです。かうは申しますもの
の、實際には、なかく容易なことではございませ
ん。それこそ何をきく、出すかわからないのですから、
もつとも、だんく大きくなつて小學校にも、そ

の上にもゆくようになれば餘程論理的になります
が、幼児期の取扱ひはまことにむづかしいと思ひま
す。

近代哲學の父と稱せらるゝデカルトの子供時代に
は、やはり質問が大好きで、いつも親兄弟を手こづ
らしたこの事です。あまり質問好きなので、『小さい
哲學者』と云ふ雑名を家につけました。その可愛らし
い質問狂が遂には大哲學者となり、「我思ふ故に我あ
り」など云つた處をみると、數知れぬ質問を自ら發
した揚句に、此の一大鐵案を得たかとも思はれ、獨
りではほゝ笑まれます。

○編輯室より

△春になりました。寒さにかちんでゐたすべてのものがのびの
びとして新しい歌をうたふときが來ました。

△來月は本會の主催で兒童保護宣傳の催しがあり、五月には大
分市に第三回全國幼稚園關係者大會があります。いよく活
動の時が來ました。

本誌定價

一冊(郵税共)金貳拾五錢 六冊 前金壹圓五拾錢
十二冊 前金 參 圓 (郵券代用壹割増)

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ
込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六
番)

大正十年三月十二日印刷
大正十年三月十五日發行

東京市下谷區花園町一番地
編輯兼發行者 黒 瀬 覽

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者 柴 山 則 常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 杏 林 舍

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

謹啓愈々御隆昌の段奉賀候陳者弊館儀今回神田區今川小路（九段下、下車）に本店を新築仕り三月一日より開店所謂「玩具に依る教育」の宣傳實行に努力仕度候間御序の節は是非御立ち寄り被下度尙左記御採用被下候は、幸榮の至りご存候

一、「俸踊」用俵

大 四拾錢

小 三拾錢

「俸踊」は岸邊福雄先生の南洋土産「俸踊」を基として久門嘉祐先生が専ら體育的、藝術的に立案せられ遊戯大成會にて講習宣傳せられつゝあるものに御座候

一、運動用具 益々隆盛を極めつゝある一般運動用具、オリンピック用具、運動服、運動靴等最も廉價に製造販賣可仕候

神田區今川小路

株式會社フレール館

電話九段一三〇七
振替東京一九六四

明治三十四年一月二十八日第三種郵便物認可(毎月一回十五日發行)
幼 兒 教 育 第二十一卷第三號
大正十年三月十五日發行
大正十年三月十五日印刷

印刷所

合資會社
杏 林 舍